

<年間目標>

- ・安心して過ごす中で遊びを見つけ、くり返し楽しむ。
- ・友だちとの関わりの中で喜びを味わう。
- また葛藤を経験し受け入れたり、乗り越えていく力をつける。

<二学期の保育の視点（願い）>

- ① 礼拝を通し、保育者が祈る姿を通し、神さまから与えられている恵み、守りに感謝する。クリスマスにお生まれになったイエスさまが共にいて下さることを知る。
- ② 一人ひとり、自分の好きな遊びを見つけ、くり返し楽しむ。
- ③ 友だちと関わる中で、共に過ごすことの楽しさを知る。自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを聞く経験をする。
- ④ 気持ちの良い季節の中、体を思い切り動かし、楽しい、気持ちが良いと感じる。
- ⑤ 集いの中で、友だち、保育者と過ごす楽しさを知る。その中で、自分を表現したりコントロールしたりする。
- ⑥ 身の回りのことに意識をもち、自らやってみようとする。
- ⑦ 秋から冬にかけての季節の移り変わりを五感で感じる。

子どもたちは、ドングリやクヌギ、クリなど、秋の恵みを見つけて登園しています。園庭では、キンモクセイを集める子どもたちもいます。気持ちの良い秋の日々を子どもたちと共に楽しみたいと思います。

「家を作りたい！」

二学期の保育の視点③より

年中組の子どもたちはホールで積み木や組み木を使って、家を作ることが好きになっています。ある日、Aちゃんがホールへ行くと、年長組の子どもたちが組み木を高く重ねて自分たちの家を作っていました。Aちゃんは少し離れたところから、大きい組の子どもたちが作った家をじっと見ていました。その家には、窓があって中から覗けるようになっています。高さもあるので、中に入るための階段も用意してありました。天井には、板が並べられ、屋根もついていました。Aちゃんはしばらくの間、じっと大きい組の家を見てから、見様見真似で自分の家を作るために動き出しました。

最初に土台になる組み木を探し、「よいしょっ、よいしょっ」と1本ずつ組み木を運びました。組み木を1本、2本3本と数を増やし組み合わせていきます。ところが、Aちゃんは色々な大きさの組み木を重ねようとするので、途中でグラついてきてしまいます。Aちゃんは何とかして積み上げようとするのですが、土台になる組み木が安定していないので、上に乗せる組み木は途中で落ちそうになってしまいました。首を傾けながら何度かやり直しをしようとするAちゃんの様子を傍で見ていた私は、「Aちゃん、同じ大きさの組み木にすると良いわよ。一緒に探してみましょ」と言いました。それから、Aちゃんは同じ大きさの組み木を運び、1本ずつ組み合わせ家の土台を作りました。

Aちゃんが家を作っていると、Bちゃんがやってきました。汗を流しながら組み木を運ぶAちゃんを見て、Bちゃんは「何を作っているの？一緒に遊ぼう」と声を掛けました。Aちゃんは「いいよ。今、家を作っているんだよ」と答えました。Bちゃんは「一緒に運ぶよ」と言って、Aちゃんの持っていた組み木と一緒に運びました。しばらくすると、Cちゃんもやってきて、「入れて」と言いました。Aちゃんは少し考えてから、「いいよ」と答えました。AちゃんとBちゃんは「二階までにしようね」と言いながら、組み木を重ねています。Cちゃんは積み木を運び、家の横に並べました。

すると、家を作っていたAちゃんがCちゃんの置いた積み木を見つけました。Aちゃんは「この積み木いらないよ、どかしてよ」とCちゃんに言いました。Cちゃんは「使うんだよ」と言いました。AちゃんはCちゃんが運んだ積み木を動かそうとしました。Cちゃんは力強く積み木を押さえています。「いらない」「いる」と言い合う二人の動きが次第に激しくなり、「もう一緒に遊びたくない」「向こうに行って」と言い合いになりました。作った家に積み木がぶつかり、グラグラ動き始めました。

その様子を気にしながら見ていた私は、「もうこれ以上は危ない」と思い、間に入りました。「Cちゃんはこの積み木を使いたかったのね。Aちゃんは使いたくなかったのね」と言うと、Cちゃんは下を向いていました。Aちゃんは「ここに積み木を置きたくない」と言い張りました。しばらく沈黙が続いた後、Cちゃんがぼそりと「ベランダにしたかったの」と言いました。その言葉を聞いて、今まで「積み木はいらない」と言っていたAちゃんの顔が変わりました。そして、「そうだ、いいこと考えた。ベランダにして洗濯物を干そうよ」と言ったのです。Cちゃんも「いいね、そうしよう」と賛成しました。AちゃんとCちゃんは着ていたスモックを脱ぎ、Cちゃんが考えた積み

木のベランダの上にスモックを並べました。傍で見ていた B ちゃんも同じようにスモックを脱いで隣に干しました。3 人は気持ちを切り替え、何事もなかったように再び組み木を運び重ねていき、自分たちの家を作り始めました。笑い声とにぎやかなおしゃべりがそこにはありました。

大きい組のように丈夫で大きな家ではありませんが、年中組の子どもたちも組み木を工夫して重ねることに楽しさと喜びを感じています。子どもの思いを受けとめながら、時には失敗の遠まわりもさせながら組み立てるコツを伝え支えていきたいと思っています。

また、友だちと一緒に過ごす中でもめぐとも見られます。それぞれの思いがあるからこそぶつかることがあります。その過程で遊びが続かなくなったり、ばらばらになったり、再びつながることもあります。子どもたちは相手の気持ちを知る経験もしているところです。私たち保育者は、見守ったり間に入ったりしながら、子どもが表現することと自分の思いをコントロールすることを体験していけるよう支えています。



(藤野 佳代)